



連載 レッスンのお悩み、一緒に考えます！

聞いて！まるみえ先生

ほこあほこピアノ教室主宰 中西美江

今回のお悩みは…

「電子ピアノについて」

お悩み内容

最近自宅のピアノが電子ピアノの生徒さんが増えてきていて、中にはキーボードの生徒さんもいます。電子ピアノの生徒さんへの指導、先生はどうされていますか？（H. T先生）

「憧れのピアノ」から 「誰でも楽しめるピアノ」の時代へ

1970年代初めに電子ピアノが販売されて以降、日本のみならず世界規模で「電子ピアノ」の普及が進んでいます。今後もますます高性能で手の届きやすい価格の電子ピアノが各メーカーから発売されることでしょう。

電子ピアノの普及によって、それまで「憧れ」の存在だったピアノはぐんと身近な存在になり、ピアノレッスンの裾野は大きく広がりました。塾や英語・スイミング・ダンス・プログラミングなどが群雄割拠する「習いごと戦国時代」にもピアノがしっかり生き残っているのは、電子ピアノの存在が非常に大きいと思っています。

自宅で練習してきたことを レッスンで「発展」させる

私自身は、今の生徒さんが少しでも長くレッスンを続けて、「手の届きやすい電子ピアノ」から「いつかは手に入れたいアコースティックピアノ」への橋渡しをしたいと考えています。

私の教室では、まず生徒さんの所有楽器を把握することから始めます。メーカー・機種・品番がわかればメーカーサイトで取扱説明書を読むことができますし、楽器店でその機種を実際に弾いて教室のピアノ（アコースティック）との違いを確かめることもできます。そうして行き着いた答えは、「お家で練習してきたことを教室で発展させる」レッスンです。

【電子ピアノの生徒さんのレッスン例】

①拍を「見える化」する

機種にもよりますが、一般的にキーボードや電子ピアノは「音を伸ばす」ことが苦手です。そこで、お家の練習では全音符や付点2分音符など、音を伸ばす音符の拍を「見える化」しています。

「見える化」とは、全音符を四分音符4つ分に表して、拍をしっかりと数えるようにすることです。その上で、レッスンでは全音符や付点2分音符をきちんと音を伸ばして演奏するようにしています。

②分散和音は和音のまま練習してもらおう

タッチなども機種によってかなり違うので、左手の分散和音などは、お家では和音のまま手の形（フォーム）を崩さないように練習してもらい、教室のレッスンで分散和音に発展させます。

③スタッカートはレガートで練習してもらおう

スタッカート奏法も、アコースティックピアノとはタッチや音の響きが異なるので、お家では音のつながりを意識するためなるべくレガートで練習してもらい、教室でのレッスンで曲に合わせたスタッカートを練習します。

先生もどうぞ、お近くの楽器店へお出かけになり、まずは最新の電子ピアノを試奏してみてください。そして、先生の生徒さんに最適のレッスンアプローチを見つけていただければと思います。

【まるみえ先生よりお知らせ】

5月20日発売のムジカノーヴァ6月号「レッスンのタイムテーブル、見てください！」にて、大人のワンレッスン「クラシック編」「ポピュラー編」をご紹介します。ぜひご覧ください！

●中西美江（なかにし・みえ）プロフィール
奈良・新大宮ほこあほこピアノ教室主宰。生徒さんの目の前で書くレッスンをして30年。ポピュラー、ジャズなどを取り入れた独自のカリキュラムでレッスンを行う。
「マイピアノ楽譜」「教室運営法」「体験レッスン成功法」「続けることのできるレッスン法」をテーマに、各地で講座開催中。

中西美江の
まるみえピアノ
レッスン
ホームページ⇒



聞いて！
まるみえ先生
お悩み受付
フォーム⇒

